

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/13 （7/6との比較）	7/13 （7/6との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	2.13% （+0.00）	85.39円 （+1.16%）	+2.3% 2018年1Q	1.50%	中銀は市場予想通り利上げを実施し、物価が一段と高まるとの見通しを示唆。住宅着工件数が市場予想を上回る内容を示す中、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは横ばい。	製造業売上高、小売売上高やCPI（消費者物価指数）などが発表予定。引き続き、世界的な通商問題の動向が注目されるものの、良好な経済指標に支えられカナダドルは対円で底堅い推移を予想。
	Aaa	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気安定	 利上げ局面		
ブラジル 	BB-	10.01% （▲0.01）	29.18円 （+2.04%）	+1.2% 2018年1Q	6.50%	発表された小売売上高は市場予想を上回る結果だったものの、前月比では減少。ルラ元大統領の出馬の是非など、大統領選挙の先行きが注目される中、国債利回りは小幅低下。レアルは対円で上昇。	貿易収支やIPCAインフレ率などが発表予定。大統領選挙においては、引き続き先行きの不透明感が漂う状況であり、債券・為替市場はともに上値の重い展開を予想。
	Ba2	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気回復	 据え置き局面		
メキシコ 	A-	7.76% （+0.08）	5.95円 （+2.54%）	+1.3% 2018年1Q	7.75%	CPIは市場予想を上回る内容。次期大統領と米国務長官が国境をめぐる協議し、メキシコなどの関係者が米自動車公聴会で証言するとの見方が明らかになる中、メキシコペソは対円で上昇。国債利回りは上昇。	特段重要な経済指標等の発表はなし。引き続き大統領に就任したオブラドル氏の発言内容や通商問題をめぐる動きには注目が集まる中、債券・為替市場はともに底堅い展開を予想。
	A3	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気安定	 利上げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/13 （7/6との比較）	7/13 （7/6との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.63% （+0.00）	83.39円 （+1.61%）	+3.1% 2018年1Q	1.50%	企業景況感が前月比で改善したほか、消費者信頼感指数は前月比で3.9%上昇し、2013年終盤以来の水準に回復。中国との関係悪化懸念もある中、国債利回りは横ばい。オーストラリアドルは対円で上昇。	雇用統計などが発表予定。中国はオーストラリア最大の輸出先であるため、引き続き、米中間の貿易摩擦の行方には注意が必要。債券・為替市場はともに概ねレンジ内での推移を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.85% （+0.04）	76.05円 （+0.99%）	+2.7% 2018年1Q	1.75%	食料品価格指数がやや強めの結果となる一方で、製造業PMIなどは弱めの内容。円が大半の通貨に対して弱含んだことなどから、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	CPIの発表があり、中銀がやや慎重な金融政策姿勢に傾きつつある中、政策金利の方向性を占う上で注目。債券・為替市場はともに方向感を探る中、一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.72% （▲0.03）	13.85円 （+0.69%）	+0.3% 2018年1Q	0.50%	CPIや貿易収支、住宅価格指数は総じて強い結果。原油価格が軟調な推移となる中、円が大半の通貨に対して下落したことなどを受けて、ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。	特段重要な経済指標の発表等はなし。経済情勢は底堅い状況が続いており、現在見込まれている9月の政策金利の引き上げは、特段の環境変化がない限りは実施される見込み。ノルウェークローネは対円で底堅い推移を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/13 （7/6との比較）	7/13 （7/6との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	8.16% （+0.10）	8.46円 （+3.25%）	+0.8% 2018年1Q	6.50%	鉱物生産量と製造業生産は市場予想を上回る一方で、企業景況感はランドの下落や小売売上高の低迷が企業心理に影響を与え、前月比で悪化。国債利回りは上昇。ランドは対円で上昇。	CPIや小売売上高などの発表と、金融政策決定会合を予定。貿易戦争などに関する警戒感が残るものの、投資家のリスク許容度が高まれば、債券・為替市場ともに上値を試すと予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
インドネシア 	BBB-	7.47% （▲0.06）	0.78円 （+1.49%）	+5.1% 2018年1Q	5.25%	消費者信頼感指数は前月から改善。中銀総裁がルピアについて依然として過小評価されていると言及し、海外投資家の債券売買フローが純流入に転じたことなどを背景に、国債利回りは低下。ルピアは対円で上昇。	金融政策決定会合を予定。足元では資本流出や通貨安の圧力が一服となっていることなどを背景に、政策金利は据え置かれる見込み。17日の国債入札において、投資家のインドネシア国債の需要度合いに注目。
	Baa2	 金利上昇		 景気拡大	 利上げ局面		
インド 	BBB-	7.95% （▲0.09）	1.64円 （+2.23%）	+7.7% 2018年1Q	6.25%	CPI、鉱工業生産指数は市場予想を下回り、貿易赤字は原油輸入の影響などにより想定以上に拡大。通商問題への懸念がやや後退し、金利が安定推移する中、インドルピーは対円で上昇。国債利回りは低下。	特段重要な経済指標の発表等はない。原油価格の動向などには注意が必要であるものの、相対的に高い経済成長性への期待が強まる状況下、インドルピーは対円で底堅い推移を想定。
	Baa2	 金利上昇		 景気回復	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

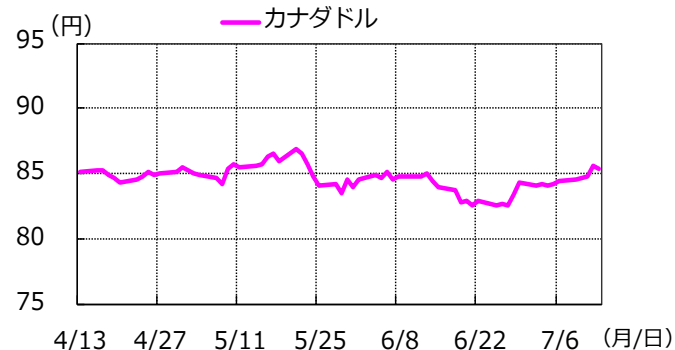
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

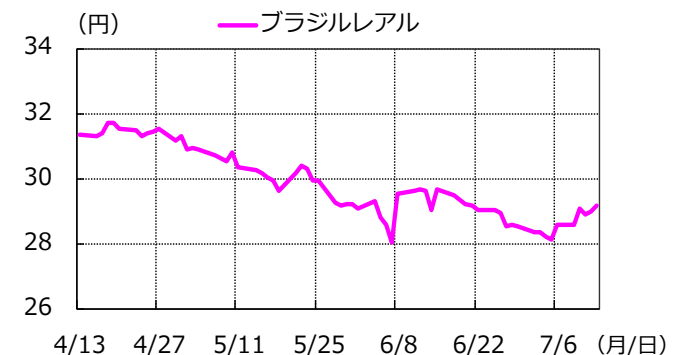
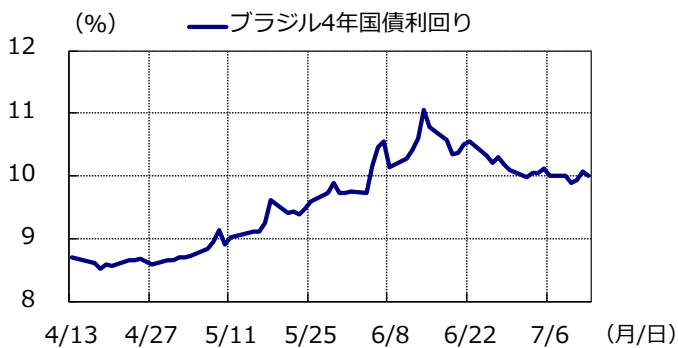
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/4/13～2018/7/13

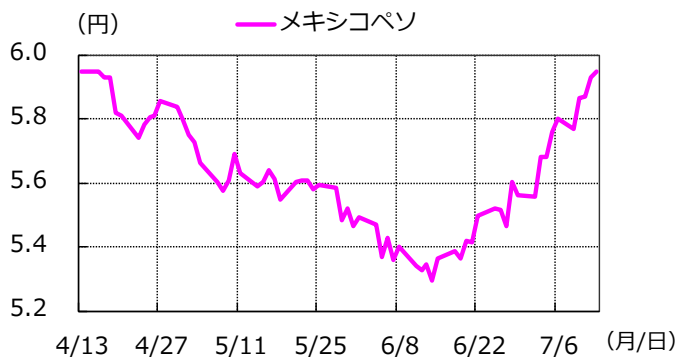
カナダ



ブラジル



メキシコ

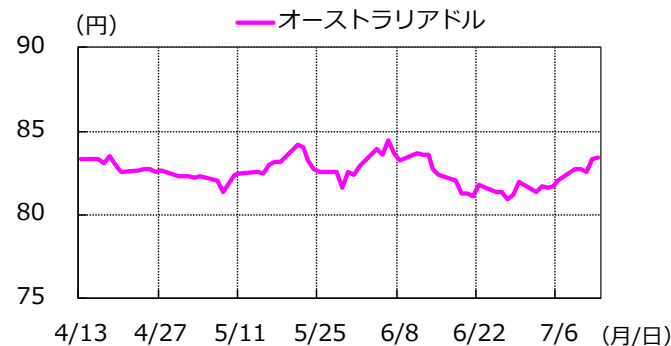
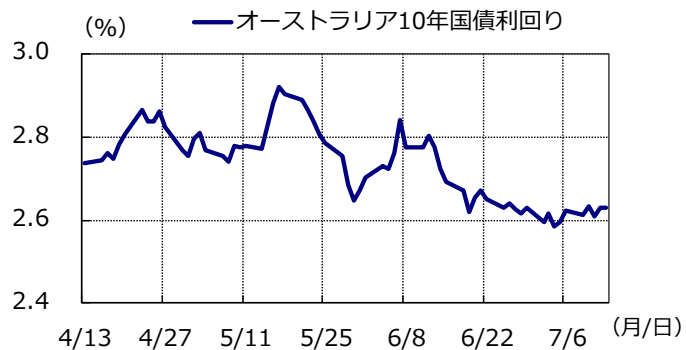


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

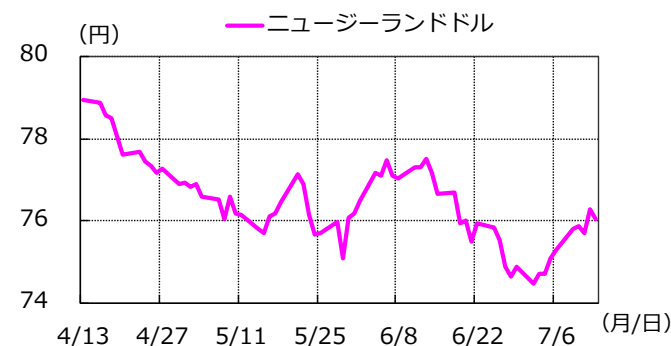
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/4/13～2018/7/13

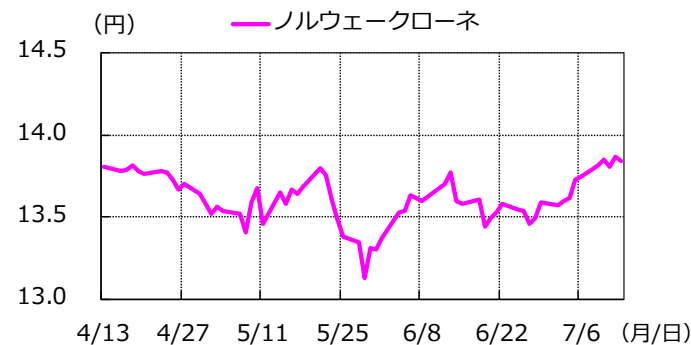
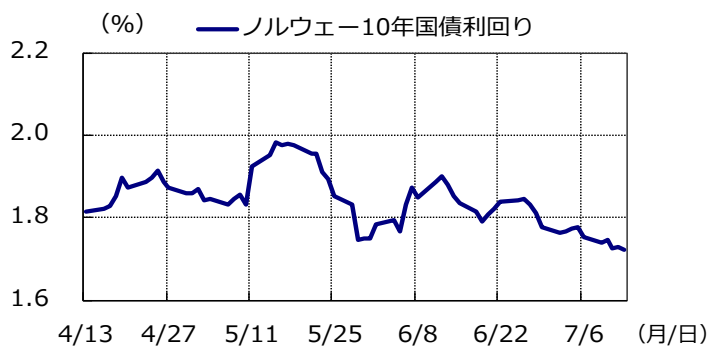
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

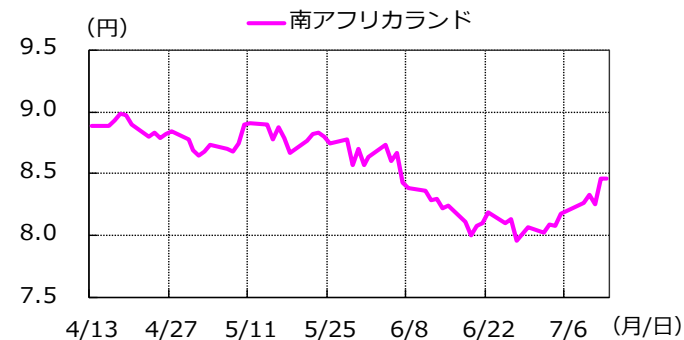


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

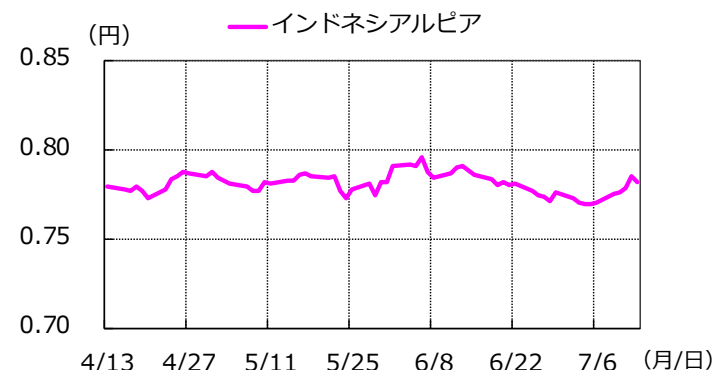
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/4/13～2018/7/13

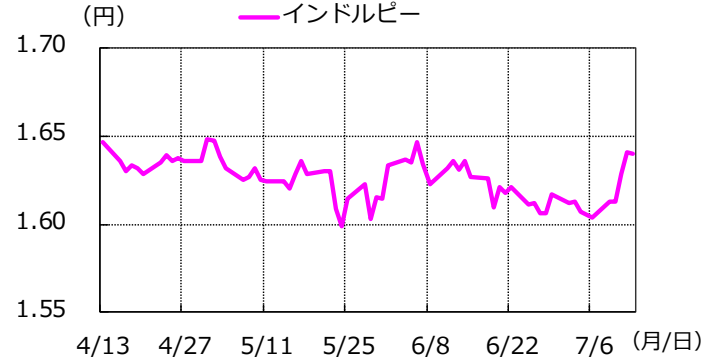
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。